

平成28年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」第3回「暮らしとエネルギー」

(テーマ：水素・省エネルギー)

- 実施日時 平成28年8月5日(金) 10時00分～16時15分
- 受講者数 8名
- 実施場所 東京スイソミル2階会議室
- 実施内容

【午前】

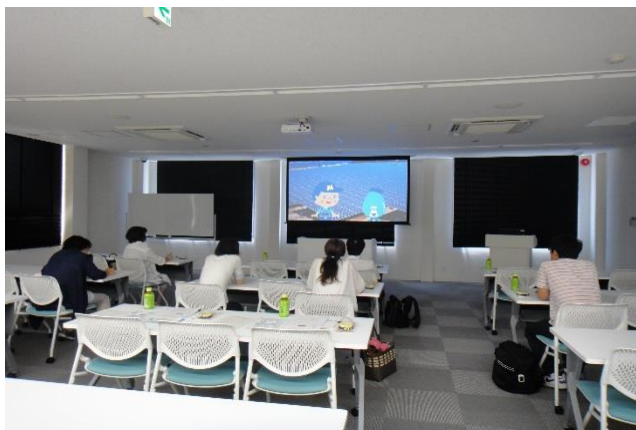
1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局(研究所)から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. 施設の見学

- ・ビデオによる施設の説明
- ・2班に分かれて、説明を受けながら施設を見学

【講義風景】



(クイズに挑戦)



(自転車こいで水素を作る)



3. ゲストティーチャーからの講義及び実習

(ゲストティーチャー：東京都環境局地球環境エネルギー部職員)

- ・水素社会とは？
- ・水素の特性、身近な水素の活用例
- ・水素エネルギーの意義
- ・水素社会実現に向けた東京都の取組

東京都における水素社会実現に向けた歩み、水素社会の実現に向けた5つの課題、基金の創設、CO2フリー水素の活用に向けた連携、選手村での水素エネルギーの活用、今後の普及啓発イベントの予定など・



4. 環境学習プログラム「暮らしとエネルギーを考える」の紹介及び実習

(講師:NPO 法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 「環境学習の意義について」(各回共通説明事項)

子供の健全な成長には、バランスよく理性と感性の両方を伸ばしていく必要がある。特に現代では、日常生活において実感を伴う様々な「体験」が不足していること、それゆえに学校において「体験」を伴う学習の必要性が増してきている。環境学習は、学校における各教科学習を基礎に、それら教科学習と関連させて実施することが大切である等の説明があった。

(2) 「暮らしとエネルギーを考える」プログラム紹介

- ・「暮らしとエネルギーを考える」プログラム
子供たちの体験につながる、涼しく過ごすための日本家屋の構造や、打ち水などの昔のからの暮らしの知恵や木々や緑がもたらす様々な効果などの体験プログラムを、子供へ説明する視点から、説明及び着眼点等の解説を行った。

また、ヒートアイランド現象とその原因、緑の役割について、子供が興味を持ちやすいようクイズ形式なども取り入れた内容の授業例や、



街の温度調べの方法について説明を行った。

- ・説明後、街の温度調べを体験するため、屋外へ出て、「日向と日陰」、「アスファルトと土の地面」、「コンクリート壁と木の幹と植え込みの中」、「エアコン室外機の近くと離れた場所」等、それぞれ条件の違う対照的な特徴を持つポイントで実際に温度の計測を行い、温度が異なること、また実際にどれだけ温度が違うかなどを確認した。

(外壁の温度を測る)



(エアコン室外機の熱風を測る)



(打ち水効果の測定)



(木陰の温度、土の温度、樹幹の温度などを測り、温度の違いを実感)



- ・実測で確認した各地点で温度が異なるのはなぜか、その原因として考えられること、環境に配慮した暮らしやすい街にするためには、自分たちの生活でできることはどのようなことか、などを班ごとに考え、まとめを行った。



(3) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、受講者が一人ずつ発表し、講師がコメントをして、受講者で情報を共有した。



5. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散